

JP144 白川河口 (しらかわかこう)

熊本県：熊本市

| | |
|----|----------------------|
| 位置 | N 32° 47′ E 130° 36′ |
|----|----------------------|

| | |
|----|---------|
| 面積 | 1,200ha |
|----|---------|

環境構成【干潟／河川／溜池／蓮田などの農地】

白川は阿蘇カルデラに源を発し、熊本市西部で有明海にそそぐ河川で、その河口には沖合 2 km を超える干潟が現われ、河口の干潟面積（坪井川・白川の両滞筋間）はおよそ 600ha。干潮時、その干潟は、（白川の北）坪井川河口から、（白川の南）緑川河口まで周辺河口域が一体となった広大な干潟となるため、「白川・緑川干潟域」とも呼ばれる。底質はもともと砂泥質であったが、現在は軟泥の部分も多い。また、アサリやハマグリ の養殖のため覆砂も行なわれている。

海岸はコンクリートブロックにより補強された人工海岸。

海岸の内側は、主に蓮田などに利用されている。白川河口南西には干潟を埋め立てて建設された熊本港港湾施設（137ha、1979 年工事着工、1993 年開港）があり、その西側部は夏期に航路浚渫土砂を搬入して埋め立てられており、一部が雨水、海水により溜池状態となることがある。付近への一般人の立入は禁止されている。



写真提供：白石健一

選定理由

| | |
|-----|--------------------------------|
| A1 | クロツラヘラサギ |
| A4i | クロツラヘラサギ・キアシシギ・ソリハシシギ・チュウシャクシギ |

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

保全への脅威

- ・熊本港の埋め立て（浚渫土砂搬入）は、2015 年に完了予定であったが、2017 年も継続中。東側半分は一時陸地化ののち、土砂搬入停止により湿地環境が戻った。しかし土砂搬入の続く西側半分はほとんど陸地化し湿地環境は僅かとなっている。
- ・カモ類への威嚇発砲（海苔養殖との兼ね合い）および違法な銃猟。

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
変わらない

- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有

<調査データの入手方法>

生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より

- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化はない

- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
普通（70～90%が最適の状態）

- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

*熊本港埋立地を、マナヅルが夜間休息地として利用している。これらのマナヅルは昼間は北方へ約 9.4km の玉名市横島干拓で採餌している。

保全活動

- ・ 環境教育活動：

内容：干潟体験やムツゴロウ観察、干潟の生態を学習など。（干潟フェスタ実行委員会）

年 3 回程度の探鳥会開催（日本野鳥の会熊本県支部）

- ・ 法律制定、政策、規制：実施者（熊本県）

内容：熊本港埋立地東側に 7ha の鳥獣保護区を指定。

- ・ モニタリング調査：

内容：モニタリングサイト 1000 調査（シギ・チドリ類）（バードリサーチ）

シギ・チドリ類羽数調査、白川河口域の水鳥を中心にした継続調査、クロツラヘラサ

ギ・ズグロカモメ県内一斉調査（日本野鳥の会熊本県支部）

- ・ その他：

野鳥公園の充実化推進（日本野鳥の会熊本県支部）

IBA サイトの保全に関する、地域のグループ

- ・ 日本野鳥の会熊本県支部

- ・ 干潟フェスタ実行委員会

見られる鳥

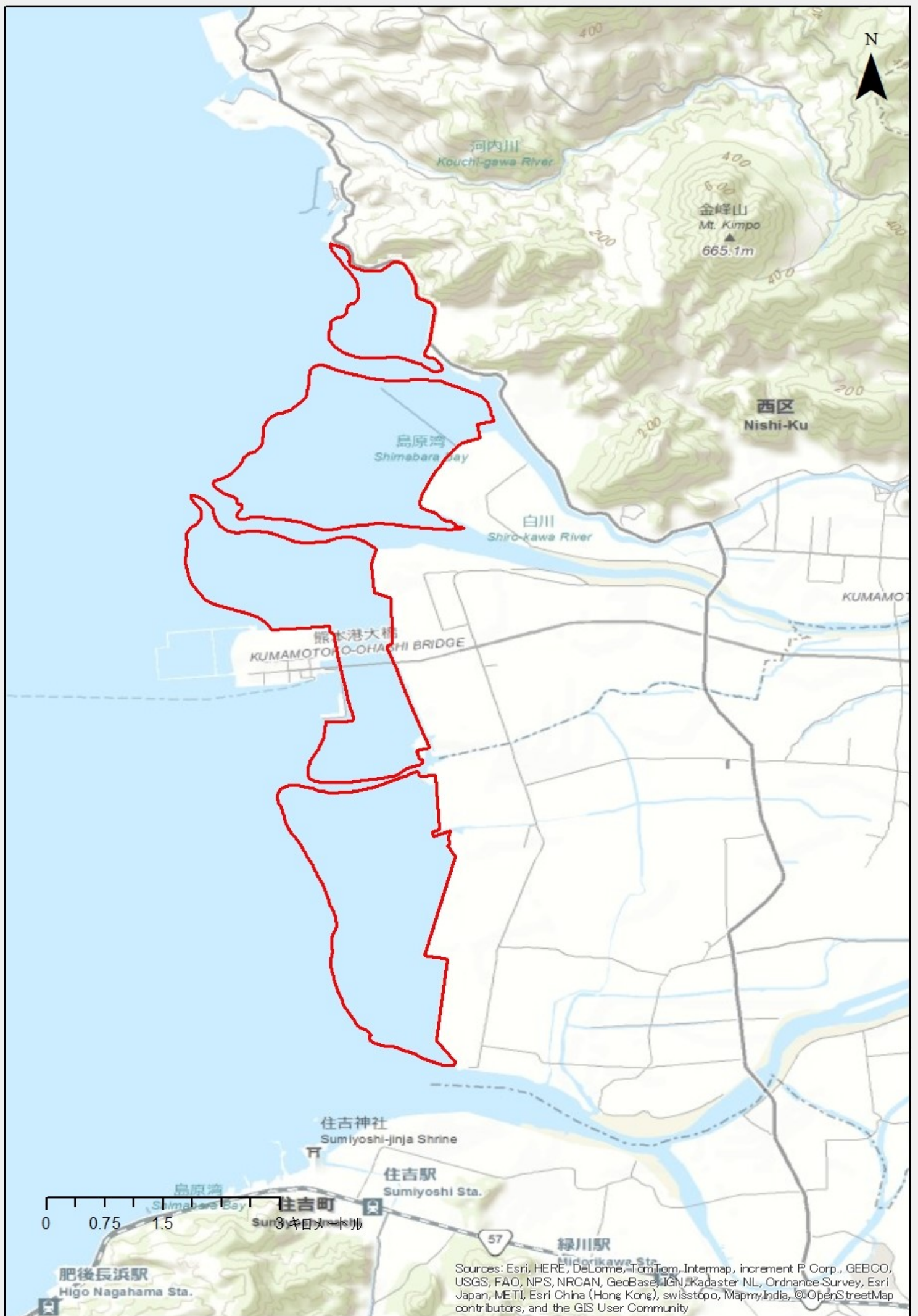
白川河口干潟では、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、サギ類、ミサゴなどが主に採餌を行っている。満潮時には、熊本港内の溜池や沖新町の蓮田などに移動し、休息するものも多い。熊本港ではマナヅルが越冬しており、北へ約 9 km 離れた横島干拓で採餌し、熊本港を

ねぐらとして利用している。この地域で越冬するクロツラヘラサギやヘラサギは、熊本港を中心に坪井川河口から緑川河口までを主な生活圏としているが、遠く横島干拓まで採餌にでかけるものもあるようだ。また、八代海で越冬している群れの一部がこの地域へも一時的な移動をしていることが、標識個体の観察で確認された。沖新町のはす田では、春秋の渡りや越冬期にシギ・チドリ類が観察される。

| | |
|----|---|
| 留鳥 | カイツブリ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、トビ、バン、タマシギ、コチドリ、イソシギ、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、イソヒヨドリ、セッカなど |
| 夏鳥 | コアジサシ |
| 冬鳥 | カンムリカイツブリ、カワウ、ヘラサギ、クロツラヘラサギ、ツクシガモ、コガモ、トモエガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、チュウヒ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、オオバン、シロチドリ、ダイゼン、ハマシギ、ダイシャクシギ、タシギ、ユリカモメ、ズグロカモメ、タヒバリ、ツリスガラ、アオジ、オオジュリン |
| 旅鳥 | メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、オジロトウネン、ウズラシギ、サルハマシギ、オバシギ、キリアイ、ツルシギ、アカアシシギ、コアオアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ホウロクシギ、セイタカシギ、ショウドウツバメ |

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会熊本県支部



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community